

研究活動報告

2002年度第2回日本人口学会東日本地域部会

2002年度第2回日本人口学会東日本地域部会は、北海道東海大学・札幌校舎（札幌市）において、2003年5月10日（土）に開催された。原俊彦教授が座長を務め、報告された研究論題は以下の3つであった。

1. 市町村将来人口の試算－都道府県推計との整合性の観点から
西岡八郎・小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）
小林信彦（第一生命経済研究所）
2. 県庁所在都市の人口構造と其の変化－メッシュデータを用いた30km圏の分析－
江崎雄治（専修大学）
小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）
武者忠彦（東京大学・大学院）
小口 高（東京大学）
3. 夫婦間の Gender Equity と出生パターン
福田亘孝（国立社会保障・人口問題研究所）

第1論題では、社人研の都道府県別将来推計人口と整合性をもたせた市区町村別の将来人口推計の手法と推計結果について報告された。手法の主たる部分はコーホート要因法によって行われ、推計結果については北海道の2030年までの試算結果が提示された。2030年には北海道全212市町村のうち157市町村で、2000年人口の70%以下に減少する、ことなどが報告された。

第2論題では、県庁所在都市がたどっている少子化の過程について、メッシュデータを利用した分析結果が報告された。特に東京大都市圏では、JR中央本線沿線において他の鉄道沿線よりも少子化の進行度合いが早いことが明らかにされた。

第3論題では、家族におけるジェンダー関係が出生パターンに与える影響について、日本の夫婦を対象にした報告がなされた。出産テンポや学歴間格差に関する分析の結果、ジェンダー関係は出生行動に影響を与える重要な要素であることなどが報告された。（小池司朗記）

日本人口学会第55回大会

日本人口学会（大淵寛会長）の第55回大会は、2003年6月6日（金）～7日（土）の二日間、朝日大学の主催により岐阜市・長良川国際会議場において開催された。本大会は吉田良生朝日大学教授を大会運営委員長とする大会運営委員会のご尽力によって、多数の参加者があり、二日間にわたって活発かつ実質的な討議が行われ、盛会のうちに幕を閉じた。シンポジウム、テーマセッション（1, 1, 3）、及び自由論題の組織者、報告題目、報告者、討論者等は以下のとおりである。